

エスニック・トランスナショナル・ アクター再考(1)

——朝鮮族の新たな跨境生活圏——

宮 島 美 花

はじめに

I 新たな跨境生活圏の形成—朝鮮族の移動・活動と社会変化—

1.1 東北アジアにおける域内交流

1.1.1 経 済

1.1.2 社会・文化

1.2 トランスナショナルな問題群

1.2.1 中国国内の朝鮮族社会に現れた諸問題

1.2.2 移動先に発生した諸問題

1.3 小 括

(以下 次号)

II 伝統的な中朝跨境生活圏の今日—朝鮮族の脱北者への関与から

III 朝鮮族のアイデンティティ, コネクション, 民族ネットワーク

む す び

はじめに

朝鮮半島に民族的ルーツを持つ移住民とその子孫、いわゆる在外コリアンは、東北アジアのすべての国に定住民として分布している。そのうち中国朝鮮族（以下、朝鮮族と略す）とは、中国国籍を持ち、中国の一少数民族として生きる約200万人のコリアンである。主に中国東北部に居住してきた彼らは、今日、国内大都市や韓国・日本・ロシアなどへの激しい移動を経験している⁽¹⁾。図表1に見るように在韓朝鮮族は14万人⁽²⁾（05年）を超え、2000年以降、韓国最

図表1 韓国の国籍別登録外国人

(単位：人)

	1995年	2000年	2002年	2003年	2004年	2005年
総計	110,028	210,249	252,457	437,934	468,875	485,144
朝鮮族	7,367	32,443	48,293	108,283	128,287	146,338
中国(朝鮮族以外)	11,825	26,541	36,297	77,202	80,036	70,654
ベトナム	5,663	15,624	16,901	23,315	26,053	35,514
アメリカ	22,214	22,778	22,849	23,208	22,566	23,476

〔出所〕 韓国統計庁の統計情報システム・ホームページ (<http://kosis.nso.go.kr/>) からダウンロード (アクセス日:07.6.5)。原典は韓国法務部『出入国管理統計年報』各年度版。

大の外国籍集団となっている。日ロ両政府は自国内に居住する中国国籍者について民族別統計を行っていないため、日ロ在住の朝鮮族の正確な人数を把握し得ないが、留学・出稼ぎ・国際結婚などを理由とする彼らの移動の様子は、「過流動」ないし「過剰」であると表現されるに至っている⁽³⁾。日本への移動者が多いのは、朝鮮族学校(民族学校)における教育の中で外国語として日本語を学んできた者が多いことが一因としてあげられる。その背景として、日本による旧満州支配の遺産として朝鮮族の外国語教師のなかでも日本語教師が圧倒的に多く、長い間、朝鮮族学校における外国語教育とは実質的に日本語教育であったことが指摘されている⁽⁴⁾。また、朝鮮族は、中朝国境を跨る歴史的・伝統的な跨境生活圏を維持し、92年以降の韓日ロへの「過流動」と同時期に、90年代の北朝鮮の食糧難や脱北者問題に対応しもしてきた。北朝鮮の食糧難に際

(1) 『黒龍江新聞』の取材・調査(05年)によると、人口統計に表れない流動人口として、青島、北京(各12万規模)、上海(6万)、天津(4万)、深圳、威海(各3万)といった沿岸都市を中心に国内分布が拡散している。韓光天著(宮島美花訳)「中国朝鮮族の都市移動の実態に関する報告」中国朝鮮族研究会編『朝鮮族のグローバルな移動と国際ネットワーク』アジア経済文化研究所、2006年、159-160頁。

(2) 短期滞在資格者(2万1,251名)も含めた「長・短期滞留外国人国籍および滞留資格別現況」によると在韓朝鮮族は16万7,589名(05年)である。韓国法務部出入国管理局『出入国管理統計年報2005年』2006年4月、461, 592頁。

(3) 佐々木衛・方鎮珠編『中国朝鮮族の移住・家族・エスニシティ』東方書店、2001年、307, 312頁。

(4) 玄武岩「越境する周辺—中国朝鮮族自治州におけるエスニック空間の再編」『現代思想』29(4)、青土社、2001年3月、206頁。

しては、のべで100万人を超える北朝鮮住民が中国へ渡り、そのうち朝鮮族との関わりの中で食糧難を生き延びた者が少なくないことが報告されている。⁽⁵⁾

98年、筆者は、日本国際政治学会の機関紙『国際政治』の特集号「国際的行為主体の再検討」(119号)に拙稿「東アジアのエスニック・トランスナショナル・アクター」(以下、98年拙稿と記す)を掲載し、民族的同質性を背景とした華人・コリアンのトランスナショナルな活動を、東アジアに経済的相互依存を形成する一要素と論じた。98年拙稿から約10年が経とうとしている07年現在、その傾向はますます強まっているのではなかろうか、そして、それにより東北アジアにはいかなる新たな国内・国際的な社会問題、社会変化が生じているのであろうか。また、民族ネットワークによるトランスナショナルな活動は、はたして経済的領域を中心に相互依存を醸成する機能のみを持つものなのであろうか。このような問題意識・関心から出発し、本稿は、朝鮮族のトランスナショナルな活動を実証的に検討することを通じて、跨境民族のトランスナショナルな活動によって地域の国際関係にもたらされるインパクトや、浮き彫りとなる地域の課題を明らかにしようと試みる。

本稿の構成は以下のとおりである。まず第I節において、朝鮮族のトランスナショナルな活動を実証的に検討することを通じて、今日の朝鮮族は東北アジアのかなり広い範囲を自らの跨境生活圏としているとの見解を提出する。朝鮮族の移動、活動、生活という視点から、東北アジアにおける域内交流の現状、地域に生じた国内・国際的な社会変化や社会問題を確認する。第II節では、はたして民族ネットワークによるトランスナショナルな活動は、経済的領域を中心に相互依存を醸成する機能のみを持つものなのであろうかという疑問から出発し、朝鮮族の脱北者への関与についての事例研究を行い、脱北者問題に関わる諸アクター間の相互作用を検討する。第III節では、第I・II節で行った実証研究を踏まえて、今日の朝鮮族のアイデンティティおよびネットワークについて検討を行う。また、エスニック・コネクション、エスニック・ネットワーク

(5) 例えば石丸次郎『北朝鮮難民』講談社、2002年、32頁。

の用語について、両者の違いを明らかにすることを意識しつつ、本稿なりの説明を試みる。最後に、跨境民族のトランスナショナルな活動によって東北アジア地域の国際関係にもたらされるインパクト、および浮き彫りとなる地域の課題について言及し、むすびとする。

本論に入る前に、エスニック・トランスナショナル・アクター、及び、コリアン・ネットワークという用語と、これに関する先行研究について触れておきたい。

石川によると、「トランスナショナル・アクター」とは、広義には「国家政府以外の国際活動単位のすべて」を指すが、狭義には「『脱国家主権』的な国際活動単位、いいえれば、既存の特定国家の利害を越え、私的にあるいは公的に自由な行動をとり、主権国家の対外問題処理能力の限界を明らかにするような非国家的行為体」を指す。具体的には、多国籍企業を含む NGO と呼ばれる国際民間組織、政党、地方自治体、民族集団などが挙げられている。⁽⁶⁾ 「エスニック・トランスナショナル・アクター」とは、筆者が98年拙稿以来使用するようになった用語であり、狭義のトランスナショナル・アクター定義を満たす非国家行為体として、民族的同質性を背景としたトランスナショナルな活動を行う民族集団を指す。「エスニック・トランスナショナル・アクター」という用語をめぐる、民族的出自を同じくする者たちがエスニックな紐帯を持つが故にトランスナショナルに活動し得ているのか、それとも、トランスナショナルに活動する個々人たちが図らずも同民族であったのか、という問いが想起されるが、⁽⁷⁾ これについては本稿第Ⅲ節で言及する。

(6) 石川一雄「トランスナショナル・アクター」川田侃・大島英樹編『国際政治経済辞典』改訂版、東京書籍、2003年、555頁。

(7) この問いは、06年10月24日、早稲田大学 COE プログラム「現代アジア学の創生」院生フォーラムにおける筆者の報告「東アジアにおけるトランスナショナルな民族ネットワークと活動に関する研究：中国朝鮮族の事例から」に対して、討論者の平野健一郎氏（早稲田大学）から提出された。本稿は、アイデンティティおよび民族ネットワークについての考察においても、この報告機会に交わされた議論と意見交換から多大な貢献を受けており、平野健一郎（早稲田大学）、権香淑（上智大学）、玄武岩（東京大学：当時）、森川祐二（早稲田大学）各氏に感謝の意を表したい。

国際関係論では、国際社会における諸現象・諸問題を取り扱う際に、国際社会を構成する基本単位として「アクター（国際行為体／国際主体）」という用語を使用してきた。スコットは、67年、その著書の「“アクター”の定義」と題した節の冒頭を「国際場裡における行動は“アクター”によってなされる」⁽⁸⁾との一文で書きはじめている。従来、国際関係論でトランスナショナル・アクターとして研究対象に取り上げられてきた民族集団は、ケベック州分離独立運動、バスク民族運動、PLO（パレスチナ解放機構）など、国家を持たない民族の国家を持つとする運動、国家からの主権の奪取ないし一部譲渡を求める運動を展開する民族集団、独立や自治を目指す民族集団であつてきた。しかし、今日、国際的な諸現象・諸問題に関連して考察を必要とする民族集団はそれにとどまらない。今日では、「日々の日常生活にあくせくする」一般の平凡な庶民たち、いわゆる市井の人々が、文化的な特徴を保持したまま大量に国際移動していること、そして移動先での滞在長期化が、新たな国内・国際社会の様態を作り出していることに研究関心が集まるようになって⁽⁹⁾いる。石川は、トランスナショナル・アクターのうち過去30年間に最も注目されたのは多国籍企業であったが、今日では民族集団に研究関心が集まってきているとして、「複数の国家内に移民、難民として分散居住する民族集団は、それぞれに国境を越えた政治的・経済的絆を維持しており、各国の政策決定過程への潜在的影響力の重要性は、きわめて大きい⁽¹⁰⁾」と述べる。

主権国家のみが国際社会を構成するアクターであるという伝統的なアクター

(8) スコットはアクターの条件として以下の4点を挙げた。①明確に確認できる、②国際場裡における決定と行動の自由をある程度確保できる能力がある、③他のアクターと相互作用して、これらアクターの思惑に対して、実証しうるインパクトを与えることができる、④ある一定期間存続する。Scott, Andrew M., *The functioning of the international political system*, New York: Macmillan, 1967, p 37. (邦訳, アンドリュー・M・スコット, 原彬久訳『国際政治の機能と分析』福村出版, 1973年, 54頁。)

(9) 平野健一郎「民族・国家論の新展開—『ヒトの国際的移動』の視点から—」『国際法外交雑誌』88巻3号, 1989年, 3頁。

(10) 石川一雄「トランスナショナル・リレーションズ」川田侃・大島英樹編, 前掲書, 555頁。

認識から出発し、国際社会の変容とともに、アクターとして観察される研究対象も変容してきた。今日、「国家と並ぶ国際行為体として」⁽¹¹⁾ますます重要な役割を果たしている国際機構・組織・機関（International Organization）も、かつては「複数の主権国家が集まって作りあげられる国際組織・機構の機能は、もっぱらその構成メンバーである国家の意思と能力によって決まるのであって、国際組織それ自体として行為能力を持つものではないと考えられてきた」⁽¹²⁾という。スコットの古い言葉のとおり、まさに「アクターのリスト（roster）は絶え間なく変化」⁽¹³⁾し、アクターとされるものの類別は多様化してきた。

このような可変性のなかにあつて、民族集団が「国際関係における完全な行為主体たりうるかいなか」⁽¹⁴⁾については今なお議論のあるところである。バスク、ケベック、PLOといった事例ではなく、「市井の人々の集まりとしての民族集団」の場合にはことさら論争的である。国際関係論という学問分野において「市井の人々の集まりとしての民族集団」をアクターと見なし取り扱ひ得るのか、そうであるとしたらそれはどのような条件のもとであるのか。そもそも今日の国際社会においてアクターとは誰なのか。今日、集団や組織はどのような過程を経てアクター化していくのか。⁽¹⁵⁾本稿で行う事例研究は、このようなアクターをめぐる一般的・理論的議論に貢献するものであると考えるが、この点については別稿の主題としたい。

次に、コリアンの国境を越える民族ネットワーク、いわゆるコリアン・ネッ

(11) 山本武彦「国際機構（国際組織，国際機関）」川田侃・大島英樹編，前掲書，227頁。

(12) 渡辺昭夫「国際行為体（国際主体）」川田侃・大島英樹編，前掲書，239頁。

(13) Scott, op.cit., p 38. スコット，前掲書，55頁。

(14) 平野健一郎「国際文化論」岩田一政・小寺彰・山影進・山本吉宣編『国際関係研究入門』東京大学出版会，1996年，140頁。

(15) これらの論点は，06年12月10日，「EUサブリージョンと東アジア共同体」研究会第2回研究会（於：早稲田大学）における筆者の報告「エスニック・トランスナショナル・アクター再考—中国朝鮮族のトランスナショナルな活動に注目して」に対して，討論者の白井陽一郎氏（新潟情報大学），及び柑本英雄氏（弘前大学）から提出された。本稿は，この報告機会に交わされた議論と意見交換を参考に，報告内容に大幅な修正を加え改めて執筆し直したものである。白井，柑本両氏をはじめ参加者各位に感謝の意を表したい。

トワークについて整理しておく。今日、「コリアン・ネットワーク」という用語は、異なる文脈において異なる意味合いで使用されており、これに関する先行研究は、①将来の完成に向けて構築中の事業的側面を持つもの、②現在の現象、③過去の事象、を扱うものの3つに大別できる。

①将来の完成に向けて構築中の事業としての「コリアン・ネットワーク」を扱うものは、90年代以降の韓国の「韓民族共同体」論ないし「韓民族共同経済圏」構想が代表的である。これまで南北の政府それぞれが、南北の領土的統一を目指して方案を提出してきた。80年代には、北朝鮮が「高麗民主連邦共和国創立案」(80年)を、韓国は全斗煥政権期に「民族和合民主統一方案」(82年)を提出している。続く盧泰愚政権が「韓民族共同体統一方案」(89年)を、金泳三政権は「民族共同体統一方案」(94年)を提出した。この「韓民族共同体」「民族共同体」という概念が、南北の領土的統一を越えて、各国のコリアンが同胞として連帯し民族的な共同体を追求し得る概念として注目されるようになり、更にはグローバル時代における民族の生存戦略として研究対象とされるようになった。権重達^{クォン・チュンダル}によると、民族共同体を形成するための基盤は互いに利益となる経済共同体を作ることである。華人経済圏を参考として、在外同胞とも連繋した民族経済圏を形成する方案を検討する必要性がここ⁽¹⁶⁾にあり、これは21世紀に「民族が生存する方案を準備する」ことでもある。しかし玄武岩^{ヒョン・ムアン}が指摘するように、実質的に韓国中心の民族ネットワークを構築しようとするものであり、そこには「南北朝鮮の統合という最高レベルの到達点にたどり着く手段として」「韓国政府や各団体で目的意識的に推進されている」側面も見受けられる⁽¹⁷⁾。

②現在の現象を取り扱う「コリアン・ネットワーク」論は、90年代の華人経済圏の議論の高まりを背景に登場し、「華人資本の間で展開している広域チャ

(16) 権重達「韓民族共同経済圏形成の必要性」『発表資料集 韓民族共同経済圏形成のための WORKSHOP』ソウル、中央大学校海外民族研究所、1998年6月30日、8-9頁(ハングル)。

(17) 玄武岩「コリアン・ネットワークと『在日』」『環』11号、藤原書店、2002年、306頁。

イニーズネットワークにはとうていおよばない」ないし「規模が小さい」と前置きしながら、『東北アジア・コリア経済圏』の形成の展望』につながる自然発生的な交流状況に関心を寄せる。⁽¹⁸⁾「コリアン・ネットワーク」という用語の初出は、おそらく、95年に文京洙が、東北アジアにおける経済関係を中心とするコリアン相互の関係に言及した高龍秀の論稿（94年）に示唆を得て、初めてそれを「コリアン・ネットワーク」と呼んだことに始まる。⁽¹⁹⁾高龍秀は、韓国企業が中国東北三省、ロシア極東に定住する同民族を「合併におけるパートナーや現地の情報提供者、労働者として活用している」こと、「現代グループがシベリアで大規模な森林開発を行うのに際し、現地での労働力を補うために、中国朝鮮族を多く雇用」していること、韓国へ外国人労働者として大量の朝鮮族が流入していること、「韓国に投資している在日韓国人」、「朝鮮への海外投資の大半を占める在日朝鮮人」、「朝鮮に投資している一部在米韓国人」に言及し、東北アジアにおける経済交流は、この地域に国境を越える民族ネットワーク形成を浮上させていると述べた。⁽²⁰⁾

③過去の事象を扱う「コリアン・ネットワーク」論は、歴史的に存在したコリアンの民族ネットワークを取り扱う。例えば玄武岩は、韓国の「韓民族共同体」論に代表的な本国中心主義を批判し、日本帝国主義への対抗ネットワークとして歴史的に存在した民族ネットワーク—植民地下の朝鮮半島「本国」よりも帝国の外縁部（沿海州、満洲など）が主導した—に遡って検討を行う。⁽²¹⁾外村が注視するのは、いわば市井の人々の生活ネットワークである。外村は、1930年代に『朝鮮日報』に掲載された在日コリアンによる名刺広告1,178件（事業所数）を収集・分類し、朝鮮半島から新規の渡日者が連鎖型に次々とやってく

(18) 文京洙「北東アジアにおけるコリアン・ネットワークの形成とエスニシティ」『立命館国際地域研究』第8号、1995年、132頁。高龍秀「東アジアの極地的経済圏と分断国家の統一」本田健吉・小川雄平編『アジア経済の現代的構造』世界思想社、1994年、112頁。

(19) 文京洙、前掲論文、143頁。

(20) 高龍秀、前掲論文、111-112頁。

(21) 玄武岩「東アジアのなかのコリアン・ネットワーク—その歴史的生成」『アジア新世紀3 アイデンティティ』岩波書店、2002年、142、149頁。

る状況下で、大阪などに「単に朝鮮人人口が多いというだけではなく、朝鮮人向けの各種商業サービス業が展開され、朝鮮人を雇用する工場等が集中する空間、つまりはエスニック・コミュニティ」と「独自の情報が流通する、いわばエスニック・ネットワーク」が成立していたことを描き出す⁽²²⁾。

外村はその実証的歴史研究によって「朝鮮半島で生まれた1世たちは一貫して強固なナショナリズムを堅持し祖国への帰国を望んでいたが2世代になると文化的にも生活のあり方も変化し日本への帰属を強め、『定住志向』が明確となる」「移民一般についても、時間の経過と世代の交代のなかで次第にホスト社会への帰属を強め同化していく」といった「在日朝鮮人の歴史について流布してきた言説や、あるいは移民集団についての一般的なイメージ」を、「歴史の実像はそのようなものではない」と一蹴する。「在日朝鮮人たち（あるいは移民集団一般にも当てはまるだろうが）の文化のあり方や帰属意識」を規定するのは時間の経過や世代の交代ではなく「国家の政策や民衆たちの接し方を含めたホスト社会の対応や本国との関係といった、移民集団を取り巻く具体的な環境や動き」であり、加えて「朝鮮人自身の主体的な活動」であって来た⁽²³⁾、とする外村の見解は、現在の現象を扱う「コリアン・ネットワーク」論にも多くの示唆を与えるものである。本稿では、朝鮮族が中朝国境を跨いで維持してきた伝統的跨境生活圏の存在も念頭に置きながら（第Ⅱ節）、今日の彼らの新たな生活圏の様態を明らかにしていこうとする。従って、本稿で扱う民族ネットワークは、②現在の現象を扱う「コリアン・ネットワーク」論の範疇に属しているといえるが、ここに歴史家の業績に学ぶ意義を認めてやまない。

(22) 外村大『在日朝鮮人社会の歴史学的研究—形成・構造・変容—』緑陰書房、2004年、133、170頁。

(23) 外村、同上書、483頁。

I 新たな跨境生活圏の形成 —朝鮮族の移動・活動と社会変化—

1.1 東北アジアにおける域内交流

98年拙稿で注視したように、東アジア各国は、領土性を持った西欧的国家を目指して紛争・緊張を続けながら、国際経済に取り込まれることで発展していこうとしている。90年代初頭、東北アジアの全ての国に分布する跨境民族たるコリアンは、冷戦期の遮断が厳しかった東北アジアにおいて、将来、東南アジアの華人に相当するネットワークの役割を果たすのではないかと期待をかけられ、注目された。例えば、清水は「現時点では、東北アジア地域の全域にあまねく存在する唯一の民族」であるコリアンは、「東北アジアの地域発展の上で関係と調整の作用を発揮し得る潜在的条件を具えている」と述べてい⁽²⁴⁾た。今日、朝鮮族は、東北アジアのかなり広い範囲を自身の跨境生活圏としつつあるという形態で、その期待を現実のものとさせつつある。

1.1.1 経 済

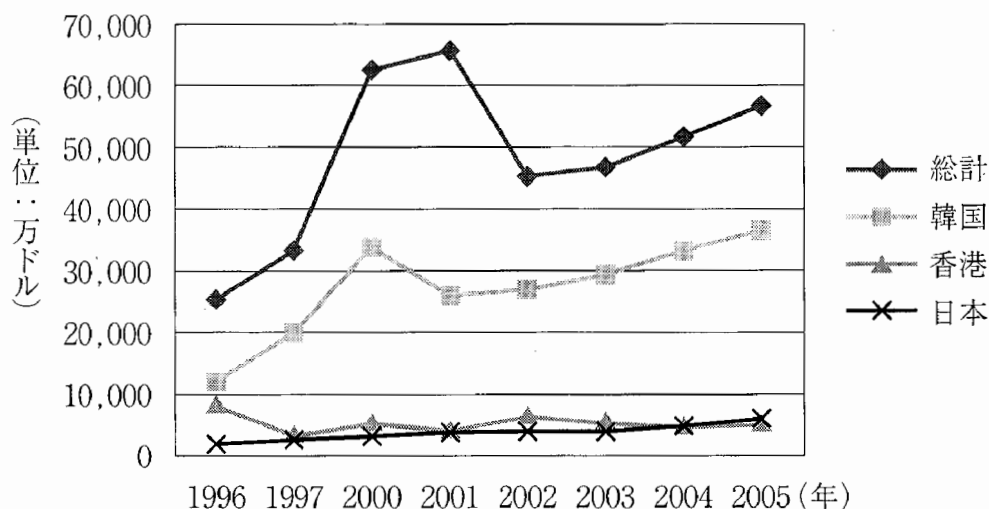
a. 投資, 送金, 貯蓄, 消費

約200万朝鮮族のうち約80万が集住し、図們江開発計画で注目を集めた吉林省延辺朝鮮族自治州（州都は延吉市）の経済は、東北アジアとりわけ韓国とますます密接に連繋するようになっている。かつて延辺といえば、朝鮮族が寒冷地に中国でも有数の優良な稲作を成功させた土地との評価がもっぱらであっ⁽²⁵⁾た。今日の延辺経済は、短期間の間に伝統的な姿を様変わりさせ、送金に基づ

(24) 清水登「東北アジア地域発展への展望」『人文科学研究』第80輯、新潟大学人文学部、1992年、63頁。

(25) 「朝鮮族人民は稲作に長じており、延辺地区で稲作を始めてからすでに百年の歴史がある。水田の開発や拡大、稲の品種の改良や栽培技術の向上は、いずれも朝鮮族農民のたゆまぬ労働と切り離せない。」「延辺の大部分の地区でとれる米は白く粘りがあり、吉林省の内外で広くその名を知られている。」「延辺朝鮮族自治州概況」執筆班（大村益夫訳）『中国の朝鮮族—延辺朝鮮族自治州概況』むくげの会、1987年、125—126頁。

図表2 延辺への投資額（外資側実際投資額）



〔出所〕『延辺統計年鑑』1997～1998, 2001～2006の各年度版

く高消費・高貯蓄, 第3次産業の突出, 高い失業率といった特徴を持つようになってきている。

海外から延辺への投資総額(図表2)は, 96年(25,395万ドル)から05年(57,086万ドル)の間に2.2倍に増加, そのうち最多を占める韓国からの投資は3倍(96年12,123万ドル→05年36,730万ドル)に増えている。延辺の外資企業数は, 96年(596社)から04年(573社)の間に総数を減少させたが, 韓国資本による企業数は増加している(96年353社→04年417社)⁽²⁶⁾。

延辺へと動くカネとして, いまひとつ注目すべきは, 延辺の年間財政収入に匹敵するという海外からの送金である。出稼ぎ労働者が韓国を中心に世界各国で稼ぎ出す外貨は, 96年に11億元(約1億ドル, 同年の延辺財政収入11億8,100万元に相当)⁽²⁷⁾, 03年の海外送金額は主に韓日口米などから6.5億ドル(同年の延辺の財政収入20.9億元の2.5倍, 延辺GDP171.5億元の31.4%)⁽²⁸⁾であったという。

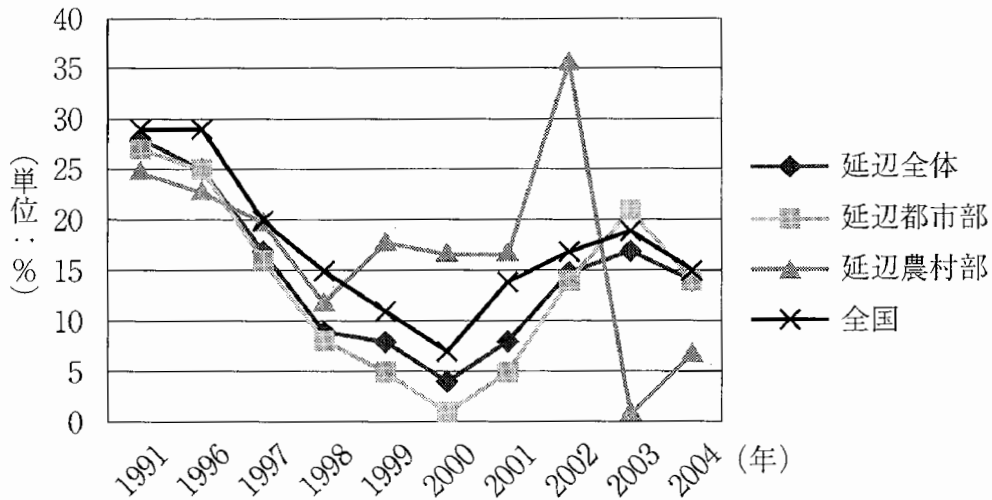
(26) 『延辺統計年鑑1997』268頁。『延辺統計年鑑2005』242頁。

(27) 鄭雅英『中国朝鮮族の民族関係』アジア政経学会, 平成12年, 313頁。

(28) 太武原「中国における国際労働輸出について—延辺朝鮮族自治州からみた国際労働輸出の一断面—」『大阪経大論集』56(3), 2005年, 80頁。

都市部と農村部の収入格差がますます拡大してきているなかであって、延辺農村部の貯蓄預金額は高い増加率を示している。延辺における職員労働者(中国語原文「職工」)平均賃金と農村住民平均収入の格差は、90年の2.5倍(職員労働者1,886元に対し農民744元)から、05年には4.4倍(1万1,966元に

図表3 貯蓄預金残額の増加率(前年比)

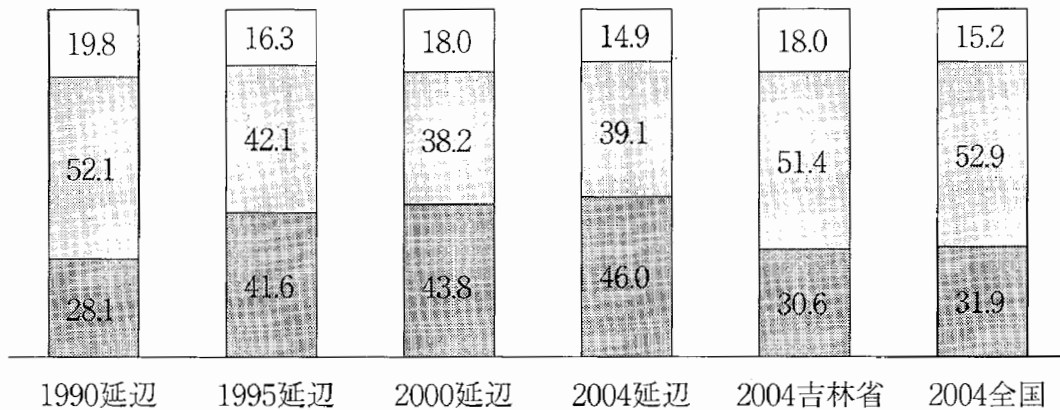


〔出所〕『中国統計年鑑2005』335頁,『延辺統計年鑑2006』144頁の各年度貯蓄預金残額から筆者作成。

図表4 GDP産業構成比

(単位：%)

■ 第3次産業 □ 第2次産業 □ 第1次産業



〔出所〕『吉林統計年鑑2006』『中国統計年鑑2005』『延辺統計年鑑1997』『延辺統計年鑑2006』

図表5 公式(登録)失業率

(単位:%)

年	2000	2001	2002	2003	2004	2005
延 辺	3.5	3.7	4	4.8	4.5	4.2
全 国	3.1	3.6	4	4.3	4.1	4.2

〔出所〕『延辺統計年鑑』2000～2005年度各年度版、中国研究所編『中国年鑑』創土社、各年度版。

対し2,661元)へと広がっている。しかし、貯蓄預金の増加率(前年比)を見てみると、延辺農村部では、とりわけ97年から02年の間に毎年平均して20%増加している(図表3)。今日、中国は全国的に高貯蓄の傾向を示しているが、延辺農村部における貯蓄預金の増加率は、96年から02年にかけては延辺都市部よりも、99年から02年にかけては全国平均よりも高い。

消費の成長を示す社会消費品小売総額(05年)は、中国全国では前年比12.9%増に対し、吉林省では13.5%増、延辺では15.8%増を示した⁽²⁹⁾。図表4で産業構造を見てみると、90年代以降の延辺の産業の特徴として、第3次産業の成長が挙げられる。今日の中国経済は第2次産業比率が高いが、延辺においては、吉林省全体および中国全体に比して第2次産業比率が低く、第3次産業比率が高い。ソウル(仁川)と結ばれる国際空港を持つようになった州都・延吉市では、全就業者における第3次産業従業者は、90年42.1%から、95年57.6%、04年70.7%へと圧倒的な割合を占めるようになって⁽³⁰⁾いる。

中国では国有企業改革に伴い失業率は高めに推移してきているが、とりわけ延辺では、2000年以降継続して公式(登録)失業率が全国レベルよりも低かったことがない(図表5)。働く場は限られていながら、延辺は移動先で稼いだ金で韓国に近い消費生活—家電から調味料に至る韓国製品、韓国式の飲食業・遊興業—を実現することに特化された「消費都市」としての様相を強めていっている。このことは、ことばが通じること、韓国のウォン貨が通用する唯一の

(29) 『吉林統計年鑑2006』14-15頁。『延辺統計年鑑2006』11頁。中国研究所編『中国総覧2006』創土社、2006年、157頁。

(30) 『延吉統計年鑑2005』64-65頁。

韓国外の地ともなったこととあいまって、韓国人旅行者・滞在者の便宜に役立っている。その一方で、移動先で身につけた技術・資格・人脈を活かすことのできる職場の限られた故郷への帰郷・帰国を躊躇する朝鮮族は、移動先で長期滞在化していつている。

b. 航 路

朝鮮族と東北アジア地域の経済関係は、日本、ロシア側の統計が全ての中国国籍者をひと括りにし民族別の集計を行っていないために実態を把握することは困難であるが、ひとつの参考となるのが、朝鮮族が運営に関わる海運会社の航路開設の動きであろう。95年6月、東龍海運（延辺航運と韓国特殊船株式会社が折半出資）が朝鮮半島南北を結ぶ初の定期航路となる延辺－羅津－釜山航路を開設した（中朝間は陸路⁽³¹⁾）。99年8月、同航路は新潟にも寄航を開始（01年6月より中止⁽³²⁾）、同年8月には延辺の現通海運集団も中国－ロシア・ポシェット－秋田航路を開設した⁽³³⁾。00年4月、中韓合弁の東春航運が、延辺・琿春－ロシア・ザルビノー韓国・東草^{ソクテヨ}航路を開設（中朝間は陸路、03年からはウラジオストックへも寄港⁽³⁴⁾）、この東春フェリーの00年～05年ののべ旅客数は約30万人、貨物は27,845 TEUである⁽³⁵⁾。02年9月3日には、延吉市で開かれた「北東アジア地域国際交流・協力第8回地方政府サミット」に出席していた鳥取県副知事が、延辺朝鮮族自治州成立五十周年祝賀会出席のために延吉を訪れていた北朝鮮の羅先市人民委員会委員長、咸鏡北道人民委員会副委員長らと面談し羅津－境港の航路開設への協力を要請、副知事は翌4日、韓国ソウ

(31) 『延辺日報』1995年6月20日付、1995年11月19日付（ハングル）。

(32) 社団法人新潟港振興協会ホームページ、国土交通省北陸地方整備局港湾航空部ホームページを参照。アクセス日はいずれも07.5.29。

(33) 『東奥日報』2001年9月23日付。

(34) 東春航運ホームページ：<http://www.dongchunferry.co.kr/>（ハングル）、アクセス日：07.5.29。

(35) NPO法人北東アジア輸送回廊ネットワークのホームページ：<http://www.17.ocn.ne.jp/~neanet/neanetpage7.htm>、アクセス日：07.5.29、TEUは20フィートコンテナ1個を1とするコンテナ取扱貨物量。

ルで東龍海運を訪問し羅津一境港航路開設を要請している⁽³⁶⁾。06年9月には、環日本海経済研究所（新潟市）、琿春市当局、韓口の運輸会社が共同出資会社を設立し、中口韓日の海陸一貫の定期輸送ライン（中口間が陸路、ザルビノー東草一新潟間が貨客フェリー）を開設するとの文書に署名した。現在、中国東北地方から日本向け物資は、陸路で大連港まで運ばれ、新潟まで約12日かかるが、新ルートはこれを1日半に短縮するという⁽³⁷⁾。

1.1.2 社会・文化

a. 言語、メディア、演劇、映画

中華人民共和国憲法（54年憲法）第3条は、中国の各「民族」⁽³⁸⁾は各自の言語文字を使用する自由を持つと定めている。朝鮮族の民族語（朝鮮語）は、63年6月の周恩来の指示に基づき、平壤のことばを基準にしつつ中国の実情を考慮するという原則で規範化が進められてきた⁽³⁹⁾。延辺では延辺朝鮮族自治条例（85年）第18条で「自治州内の国家機関と企事業単位の公印、扁額は全て朝漢両文字を併用する⁽⁴⁰⁾」と定められており、延辺へ行ったことのある韓国人であれば、誰もが看板に書かれたハングルのスペルを見てすぐさまそれが北朝鮮式であると気づいたことであろう。しかし、一般の朝鮮族が実際に日常生活で使用していることばは、平壤のことばそのままではないのはもちろんのこと、朝鮮族の規範語として定められたものとも同じではない。『朝鮮語規範集（修正増補版）』はその序文で「この規範集に収録された全ての内容は、中国朝鮮語

(36) 『日本海新聞』2002年9月7日付。

(37) 『日本経済新聞』2006年9月6日付。

(38) 本稿では、民族ということばをいわゆるエスニック・グループないしエスニシティの意味で使用している。ここは、中国でいうところの意味での「民族」であるので、かぎ括弧をつけ表記した。中国で「民族」とは、政府の民族識別工作により「民族」と認められたものをいう。

(39) 植田晃次「中国の朝鮮語規範化文献に見る規範制定者の『規範語』観—文化大革命終結以降—」『国際開発研究フォーラム』6, 名古屋大学大学院国際開発研究科, 1996年, 272頁。

(40) 延辺朝鮮族自治条例は、延辺朝鮮族自治州地方志編纂委員会編『延辺朝鮮族自治州志』下巻, 中華書局, 1921-1929頁（中国語文）に所収。

査定委員会で審議，採択されたものであり，朝鮮語を使っている国内の全ての機関，学校，企業所，社会团体および全ての人々は必ずこの規範を守らなくてはならない⁽⁴¹⁾』としているが，実際にはそれはなかなか守られていない。例えば延辺の朝鮮語の難しさは，北朝鮮の言語政策を参考にしながら，隣接する朝鮮半島北部の咸境北道方言を基盤に，中国語からも大量の語彙や表現を借用して成立しているところにある。そこへ近年，韓国のことばの影響が入り始めており，朝鮮族の朝鮮語はますます複雑さを増している。

玄武岩によると，朝鮮族は，韓国の衛星放送を視聴することで，消費形態，ファッション，言語など日常生活全般にわたり韓国化を経験した。韓国のスターやアイドルをそのまま自分たちの身近なスターと受け止め，韓国のヒット曲が中国国内の朝鮮族社会でも流行し，家族そろって韓国ドラマを見，翌日職場ではそのドラマの話で盛り上がる。「朝鮮族社会は韓国の衛星放送を中心にしたメディア空間に部分的に編入され⁽⁴²⁾」てしまったという意見に従えば，韓国の標準語の影響が強まっているのは必然の結果であろう。

韓国の演劇や映画などにも，朝鮮族が韓国社会のどこにでもいるありふれた存在として登場するようになった。94年の初演以来ロングランを続け韓国を代表するミュージカル作品「地下鉄1号線」，05年韓国映画「ダンサーの純情」は，いずれも在韓朝鮮族女性を主人公とするものである。筆者の懸念する限りでは，これらの作品は鑑賞する者に，純情で田舎っぽく韓国人男性を慕うというステレオタイプ化された朝鮮族女性像を押し付けもする。

b. 文学，文芸

朝鮮族の文学作品にも，ありふれた日常に蔓延する国際移動という話題を題材にしたものが見られ，日本にも紹介されている。張慧英^{チャン・ヘヨン}の作品「ロシアで会った女」(『天地』94年1月号)は出稼ぎを取り扱う。中国に妻子を残し，

(41) 中国朝鮮語規範委員会・東北三省朝鮮語文工作協作小組弁公室編『朝鮮語規範集(修正増補版)』延辺人民出版社，1996年，1-2頁(ハンゲル)。

(42) 玄武岩「越境する周辺」前掲誌，215頁。

借金をしてロシアへと出稼ぎにやってきた朝鮮族のフンスは、同じく出稼ぎにやってきた朝鮮族の女性ヨンヒと知り合い、妻への罪悪感に苛まれながら、夫婦同然に暮らし市場で商売をし、金を儲けるようになる。しかし実はヨンヒにも中国に自分を待つ養うべき夫と子どもがおり、ある日突然、真実を告白する手紙を残して金を持って姿を消す。無一文になっても家族は自分の無事の帰りを喜んでくれるはずと信じ中国に戻ったフンスは、妻のことばに衝撃を受け、口論になる。

「半年も行ってたのに、一銭も稼いでこなかったなんて、わたしたちはこれからどうやって生活するの？ 借金はどうやって返すの？ 子供たちはどこからお金を出して勉強させるの？ ウッウッ…」

待っていたのは涙と悲しみ、恨みと非難だけだった。金！ 妻が待ちこがれていたのは良心とか貞操ではなく、他でもない金だった。⁽⁴³⁾

チャン・チュンシク
張春植の作品「ほんもの、にせもの にせもの、ほんもの」(『長白山』96年6号)は偽装結婚を取り扱う。勤め先の国営企業の工場が閉鎖になり、失業手当で食いつないでいる夫婦と幼い娘の3人家族の話である。妻の中学時代の同級生は、韓国への嫁入りの斡旋で羽振りが良く、夫婦をあおりたてる。

「韓国へ入れたら、逃げ出して勝手に働いて金さえ儲ければいいじゃないの。あちらでは社長と名のつく家のお手伝いをすれば、ひと月に一万元は楽に稼げるそうよ。だからみんな偽装結婚がやりたくて、そのために夢中ではしりまわっているのでしょう。」

「でもそんな…」

「でもって何？ 近頃の世の中じゃ金が王様よ。あんたみたいにお高くとまっていたは、今に乞食になるんじゃない？ 見ておいで！」⁽⁴⁴⁾

(43) チャン・ヘヨン「ロシアで会った女」劉孝鐘+中国朝鮮族を読む会編訳『ソウルパラム 大陸パラム-改革・解放政策下の中国朝鮮族実話小説』新幹社、1999年、119頁。

夫は妻を韓国に「『嫁がせたくて』気が狂ったように外を歩き回」り、夫婦は偽装離婚する。妻は韓国人男性と結婚し、韓国行きを果たすが、妊娠によって次第に偽装が偽装でなくなっていく。苦悩のなかで男の子を生むと、妻はもはや自分は中国よりも物質的に豊かな韓国での暮らしを手放せないという手紙で中国に残してきた夫を捨ててしまう。

この2作品を日本に紹介した劉孝鐘^{ユ・ヒョジョン}によると、これらは実際の取材にもとづく「実話文学作品」である。⁽⁴⁵⁾ 筆者は01年、日本在住の朝鮮族を対象とする、聞き取り調査を含む共同調査に参加したが、そこでも語り手自身の実際の体験・状況として、出稼ぎ、出国のための結婚といった聞き取り内容が得られている。⁽⁴⁶⁾

朝鮮族の文学が、このように物質的豊かさを貪欲に追求する朝鮮族の姿を描くようになったのは、92年中韓関係正常化よりも以前の、中国の改革開放政策に契機を持つ。84年の崔紅一^{チュ・ホンイル}の作品「生活の響き」⁽⁴⁷⁾を見てみよう。この作品を日本に紹介した大村によると、この作品は、改革開放期の中国にあって、「経済の現代化」によって「幸福」の意味と追求の手段で食い違うようになった夫婦の葛藤を描いている。⁽⁴⁸⁾ あらゆる手段を使って、農村から都市への転職、条件の良い住宅の獲得といった都市部でのよりよい暮らしを実現していく妻・貞姫^{ジョンヒ}は、能力がないと夫をなじる。そのことばに夫・哲進^{チョルジン}は衝撃を受け、口論になる。

(44) チャン・シユンシク「ほんもの、にせもの にせもの、ほんもの」劉孝鐘+中国朝鮮族を読む会編訳、同上書、187頁。

(45) 劉孝鐘「あとがき」劉孝鐘+中国朝鮮族を読む会編訳、同上書、251頁。

(46) 「中国で漢族と結婚し子供ももうけたが、韓国への出稼ぎブームに乗って夫と離婚し、結婚ビザで韓国に渡りました。韓国滞在中、日本に旅行に来たが、韓国よりもっと儲かりそうなので短期ビザで2度目に来日し、滞在している。(超過滞在者30代女性)」権香淑・宮島美花・谷川雄一郎・李東哲「在日本中国朝鮮族実態調査に関する報告」中国朝鮮族研究会編、前掲書、190頁。

(47) 崔紅一(大村益夫訳)「生活の響き」大村益夫編訳『シカゴ福万一中国朝鮮族短篇小説選』高麗書林、1989年。

(48) 大村益夫「解説」崔紅一著(大村益夫訳)『都市の困惑』早稲田大学出版部、1993年、166-170頁。

「あなたは どうして そんなに 能力 がないの？ あなたを 信じて 転勤を 待っていた 私が バカ だったわ」

「あんまり じゃないか。それでも 女房に 逢いに 来た 亭主に 向かって 言う 最初の せりふが それか。そうとも、俺は 能力 ないよ」⁽⁴⁹⁾

この口論の様子は、先に見た張慧英の作品「ロシアで会った女」で、出稼ぎ先のロシアで騙され無一文になって中国に戻った主人公フンスと妻の口論に重なり合う。今日の朝鮮族の豊かさの追求が80年代から継続しているものであることは疑いをいれない。90年代以降、この追求は国境を越えて展開されている。06年8月、筆者が延吉の街角で何気なく買った1冊の雑誌『延辺女性』⁽⁵⁰⁾（06年7月号）をめくって見るだけでも2編が日本生活に題材を得ている。

c. ヒトの移動：旅行，就労，結婚

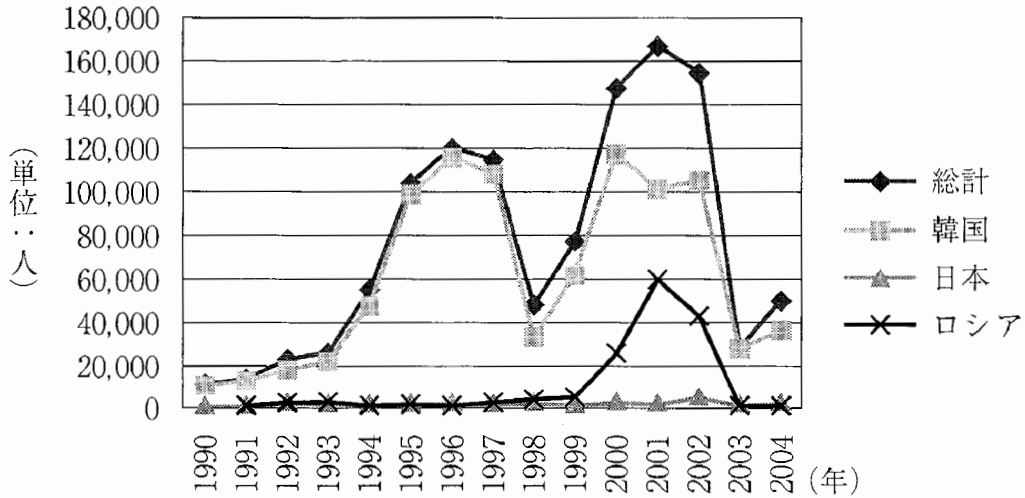
次に旅行，就労，結婚等によるヒトの移動を見てみよう。図表6に見るように、延辺への外国人旅行者は概ね韓国人旅行者である。延辺を訪れる韓国人旅行者の目当ては、民族発祥の聖地とされる白頭山(中国語では長白山)である。

首都北京からのアクセスも悪い地方都市に過ぎなかった延辺への交通網は、92年前後の韓国との交流に牽引される形で整備され、01年には延吉—ソウル(仁川)を直行(2時間程度)で結ぶ国際航空路線が実現した。ソウルから旅行者を中心とした韓国人を運び込むために必要であったこの国際線は、次第に中韓に跨って生活を営む朝鮮族によって利用されるようになった。筆者が06年8月、これに搭乗し往復したところ、韓国人男性と朝鮮族女性を父母にもつ、或いは韓国に在住する朝鮮族の両親をもつ子どもたちが見られた。彼らは、夏休みを中国の祖父母と過ごそうという小学生、韓国在住の両親は多忙の

(49) 崔紅一(大村益夫訳)「生活の響き」, 同上書, 51頁。

(50) 朴インジャ著「私、本当に生きていけない」は、「1996年私はあちこちから巨額の借金をして夫と子供たちを薄情にも残し、見知らぬ日本という島国で旅装をといた」という一文で始まる。チン・ヒユ著「日本の弁当」は中国人留学生の働く中小企業の弁当工場の話である。『延辺女性』2006年7月号(ハングル)。

図表6 延辺の外国人旅行者数



〔出所〕『延辺統計年鑑』1998, 2001, 2005の各年度版。

ため中国で祖父母にしばらく養育されるという乳幼児・未就学児，中国の祖父母のもとで養育されていたが今回，韓国の親元へ戻ろうという子どもたちであった。筆者が，孫を連れて搭乗したある老年の朝鮮族女性に話を聞くと，次のように語った。

長女が韓国人と結婚し韓国に住んでいます。仕事もいろいろ忙しく，生まれた子どもを育てられないとのことで，私が中国で育ててきました。小学校にあがる年齢になったので，韓国に呼び戻したいという連絡があり，今回韓国に連れて行くところです。この子は賢い子で，中国語も朝鮮語も両方とも読み，書き，聞き，話すことができます。漢族の幼稚園に通わせ，朝鮮語の読み書きは私が教えました。私は今はもう定年になりましたが，もともと学校の教員だったので。次女は日本に住んでおり，日本人の男性と暮らしています。近い将来，結婚するつもりだということで，その日本人男性からプレゼントをもらったこともあります。洋服でしたが大変よい品物でした。私は次には日本の孫を育てることになりそうですね！

筆者が01年8月に大阪・関西国際空港→瀋陽（当日乗継）→延吉→大連→

広島という行程で搭乗した際にも、大連→広島以外の全ての区間で朝鮮族の子ども連れが見られた。出稼ぎ理由で国際移動する朝鮮族について、太武原は、延辺の小・中学校生徒（B 小学校5年1組47名，D 中学校2年1組50名の計97名）へのアンケート調査（04年）を行っている。全体の41.2%（40名）が両親ともないし両親のどちらかが国内・国際労働力移動をしており、そのほとんど（37名）が国際移動をしている。この2クラスの生徒の全父母数（194名）のうち国際移動している父母は51名（26.3%）で、その移動先は韓国が88.2%（45名），日本7.8%（4名），フランス，ブラジルが各1名となっており，「移動の近距離化」と、域外移動も少数ながら選択されていることを示している。⁽⁵¹⁾

1.2 トランスナショナルな問題群

1.2.1 中国国内の朝鮮族社会に現れた諸問題

流出した人口が戻らないことに加え，韓国人男性との婚姻をはじめとする朝鮮族女性たちの移動，農村における朝鮮族男性の結婚難が，朝鮮族社会の急速な少子化を，そして児童の少なさがとりわけ農村における民族学校の閉校を招いている。

図表7に見るように，在韓朝鮮族14万超（05年）のうち，韓国国民の配偶者資格の朝鮮族女性は，在韓朝鮮族のなかで最多数のグループとなっている。韓国人男性の外国籍妻として第2位の中国人女性（朝鮮族以外），第3位のベトナム人女性と比べても，第1位の朝鮮族女性の数は圧倒的である。

中国側のセンサスを用いた^{クォン・テファン}権泰換の研究によると，中国国内の朝鮮族人口の性比（女性100人あたりの男性数）は，中国全国・全年齢層平均では90年（98.07）から2000年（98.97）にかけて変化を示していないが，郷村地区における15～29歳の年齢層では90年（106.05）から2000年（118.73）に最も大きな変動を示している。これは都市に居住する朝鮮族女性はあまり移動しないということではなく，都市の女性の移動をより多くの結婚適齢期の農村女性

(51) 太，前掲論文，81-82頁。

表7 国籍・在留資格別登録外国人（韓国 2005年）（単位：人）

	総計			非専門就業 (E-9)ビザ	飲食業 (E-9-A)	建設業 (E-9-D)	就業管理 (F-1-4)	国民配偶者 (F-2-1)
朝鮮族	146,338	男	63,906	6,718	1,601	7,269	28,788	3,273
		女	82,432	7,120	7,816	508	24,548	27,329
中国 (朝鮮族以外)	70,654	男	37,520	9,537	0	0	0	1,394
		女	33,134	4,150	0	0	0	13,264
ベトナム	35,514	男	23,081	2,393	0	0	0	37
		女	12,433	1,106	0	0	0	7,412
フィリピン	30,649	男	18,728	3,235	0	0	0	118
		女	11,921	1,905	0	0	0	3,747

〔出所〕 韓国法務部出入国管理局『出入国管理統計年報 2005年度』306-311頁。

が補填している現状、つまり結婚適齢期の農村女性が最も移動しているという現実を示している。⁽⁵²⁾ 99年の延辺の朝鮮族新生児数は89年の4分の1にしかない3,800名であったという。⁽⁵³⁾ このような人口流出と少子化は、延辺は朝鮮族の民族自治区域であるにもかかわらず朝鮮族の比率が減少し、漢族が増えている（延辺では90年漢族56.65%、朝鮮族40.54%→05年漢族59.43%、朝鮮族37.53%）⁽⁵⁴⁾ といった人口問題を発生させてもいる。

1.2.2 移動先に発生した諸問題

次に移動先に発生した問題を見てみる。図表1に見たように韓国に暮らす朝鮮族は増え続けている。韓国政府は、中韓国交正常化以降、大量に韓国へと移動してくる朝鮮族をめぐって労使問題・超過滞在・不法就労・不法入国問題などに追われてきた。韓国行きを望む朝鮮族側と、3K労働者不足・農村の嫁不足を抱える韓国側の利害の一致が、出入国・国際結婚をめぐり詐欺や高額を要

(52) 権泰換「1990年代における中国朝鮮族人口の傾向」中国朝鮮族研究会編、前掲書、136頁。

(53) 黄有福「東北アジア時代と中国朝鮮族」中国朝鮮族研究会編、前掲書、63頁。

(54) 『延辺統計年鑑 2006』58頁。

求する悪質なブローカーの横行を許してもきた。朝鮮族と韓国人の、どちらか一方が被害者でどちらか一方が加害者という単純な構図は示されていない。朝鮮族と韓国人とが結託していると言われる詐欺ないしブローカー組織は、政府の取り締まりが追いつかず、被害者への公的支援も不在の中、韓国 NGO が調査および被害者救済運動を展開している。

a. 国際結婚

パク・クァンソン

朴光星によると、韓国政府が韓国入国条件を強化すると韓国入りのための手段として婚姻を選択する女性が増加し、婚姻が成立するとその朝鮮族女性の親族に親戚訪問名目の韓国入りが認められるため、1件の婚姻は朝鮮族妻の人数の2～3倍の朝鮮族の韓国入りに繋がっている⁽⁵⁵⁾。出国の手段として利用される国際結婚について、クォン・ヒャンスグ 権香淑は、女性側の持つ「若さ」という「年齢的資源」と、男性側が持つ「場所的資源」（相対的に経済優位性のある居住地としての韓国）との交換、と指摘する⁽⁵⁶⁾。韓国人男性との婚姻によって韓国へ移動し、韓国国籍を取得し、経営・商売の才覚を発揮して、親族を支援し、快活に生きる朝鮮族女性の姿についての言及がある一方、かねてより韓国人男性側が朝鮮族女性の家庭に支払う結納金などに「売買婚」的意味が指摘されてきた⁽⁵⁸⁾。後者の指摘は、出国の手段として利用される国際結婚が、朝鮮族女性の本意によるものかどうかは別問題であることに留意しなくてはならないことを示唆している。

(55) 朴光星「韓国における朝鮮族の労働者集団の形成」櫻井龍彦編『東北アジア朝鮮民族の多角的研究』ユニテ、2004年、134頁。

(56) 権香淑「越境する〈朝鮮族〉の生活実態とエスニック・ネットワークー日本の居住者を中心にー」社会安全研究財団内「外国人問題研究会」（代表 田嶋淳子）編『韓国系ニューカマーズからみた日本社会の諸問題』社会安全研究財団、平成18年、248頁。

(57) 朴光星「中国朝鮮族：社会変化とジェンダー」中国朝鮮族研究会編、前掲書、147-148頁。

(58) 金承哲「中国朝鮮族女性と韓国男性との涉外婚姻実態」延辺大学《21世紀へ駆ける中国朝鮮族》叢書編集委員会編『中国朝鮮族文化現状研究』黒龍江朝鮮民族出版社、1996年、56-75頁（ハングル）。

b. 外国人労働者問題

韓国政府が朝鮮族の不法就労の問題に追われる背景には、労働力不足の韓国経済がすでに朝鮮族なしでは立ちいかななくなっているという現実がある。70年代半ばまで韓国はドイツや中東などに労働力を送り出す立場であったが、88年ソウル・オリンピック前後の急速な経済成長で、いわゆる3K業種（韓国ではDiffcult, Dirty, Dangerousの3D業種という）で労働力が不足するようになり、低熟練分野における外国人労働者の需要が発生した。93年11月、外国人労働力を産業研修生として受け入れる制度が作られたが、正規の「労働者」と見なされない「研修生」は労働者の権利を保障されず、韓国国内の法的な保護を受けることができなかった。差別的待遇・過酷な労働環境のあまり朝鮮族船員らが集団で反抗し韓国人船長・船員を殺害したペスカマ号事件（96年）は、朝鮮族と韓国人の間の労使問題が最も極端な形で表面化した例である。⁽⁵⁹⁾

3K業種における人手不足は慢性的で、研修期間を終えてなお就労機会を求める者を含め、不法労働者は増加し続けた。産業研修生制度は製造業、建設業をはじめとする特定分野に限定されており、サービスセクターの人手不足が深刻化するなか、多くの外国人不法就労者は、とりわけ人手不足感の強い飲食店等で就労した。その中には、研修生の労働環境・就労条件に不満を持ち逃亡した者も含まれるという。⁽⁶⁰⁾ 筆者の個人的な体験でも、すでに96年頃にはソウルの下宿屋や大衆食堂で、朝鮮族の中年女性がこまごまと厨房を切り盛りしている様子を目にすることがあった。

接客の現場で言語を教育する必要のない朝鮮族の需要がとりわけ高いことは想像に難くない。韓国政府は02年、外国人制度改善法案を発表、「サービス業については、中国等にいる韓国系外国人を活用する」という方針が示され、ま

(59) ペスカマ (PESCA MAR) 号事件は、事件発生後、燃料不足で漂流中に日本の領海内で発見され、日本でも報道された。『朝日新聞』（1996年8月26日付）ではペスカ・マール号と表記している。

(60) 労働政策研究・研修機構編刊『労働政策研究報告書No.81 アジアにおける外国人労働者受け入れ制度と実態』（2007年）の第2部第1章「韓国における外国人労働者受け入れ制度と実態」、25, 44頁。

図表 8 外国人雇用許可制現況

(単位：人)

		2004年	2005年	2006年	2007年1月	総計
一般雇用 許可制	小計	3,167	31,659	28,976	1,627	65,429
	製造業	3,124	31,115	28,182	1,578	63,999
特例雇用 許可制	小計	3,928	28,814	50,223	1,371	84,336
	建設業	2,514	18,072	20,804	0	41,390
	サービス業	1,414	10,742	19,422	822	32,400

[出所] 韓国労働部『韓国の労働統計 2007』61頁（韓国労働部ホームページよりダウンロード，アクセス日：07.6.10）。

ず朝鮮族をはじめとする在外コリアンをサービス業6分野（飲食業・ビル清掃・社会福祉・清掃関連サービス・介護・家事）に活用できるようにした。03年7月には製造業，建築業，農畜産，サービス業における低熟練労働者受け入れのための外国人労働者雇用法を制定，これにより04年8月に，送り出し国政府と韓国政府双方が労働者管理を強化させ，合法的に外国人を雇用できる外国人雇用許可制⁽⁶¹⁾を施行した。

現在，韓国の外国人雇用許可制は，一般外国人向けの一般雇用許可制と在外コリアン向けの特例雇用許可制（どちらも滞在期間3年）からなっている。特例雇用許可制による在外コリアン労働者とは，実質的に朝鮮族労働者のことである（07年1月時点で全8万4,336人のうち朝鮮族7万9,306人⁽⁶²⁾）。図表8をみると，一般雇用許可制による一般外国人労働者の場合，ほとんどが製造業に従事しており，特例雇用許可制による在外コリアン労働者（つまり朝鮮族労働者）は，主に建築業とサービス業に従事している。

先に見た図表7では在韓朝鮮族約14万人（05年）のうち，男性では「就業管理（F-1-4）」ビザを持つ者が最多であった（2万8,788人）。女性では「国民配偶者」（2万7,329人）が最多で，「就業管理」ビザを持つものはその次に

(61) 労働政策研究・研修機構，同上書，25-26頁。

(62) 韓国労働部『韓国の労働統計 2007』62頁（韓国労働部ホームページよりダウンロード，アクセス日 07.6.10）。

多い(2万4,548人)。「就業管理(F-1-4)」ビザとは、「国内に8寸(8等親)以内の血族または4寸(いとこ)以内の姻戚があるか、大韓民国戸籍に登録されている人の直系尊卑属」⁽⁶³⁾に対して発給され、滞留ではなく就業目的の者に発給される⁽⁶⁴⁾。日本の先行研究は、このF-1-4ビザについて、特例雇用許可制度を利用する在外コリアン向けの「非専門就業(E-9)の在留資格を取得するまでの一時的な在留資格と思われる」と述べる⁽⁶⁴⁾。現在のところ筆者は、F-1-4ビザないしE-9ビザを持ち、特例雇用許可制を利用して韓国で就労する朝鮮族女性のうち、サービス業に従事している割合はどの程度かを確認する資料を見つけるに至っていない。しかし、「家事・介護労働を外部それも外国人に担わせることには抵抗があるというのが一般的な韓国人の考えのよう」であり、「現在は、言語、習慣という点で障壁の少ない韓国系中国人に限定して例外的に受け入れているに過ぎない」⁽⁶⁵⁾という意見を勧案しても、朝鮮族女性にはサービス業を、朝鮮族男性には建築業を、その他の低熟練力の需要を一般外国人に担わせているというのがこの制度の実態であると考えてよいであろう。特例許可制度を利用する朝鮮族は急増していきおり(図表8)、一般外国人労働者を家事・介護労働を含むサービス業分野へ投入することも容易ではないなかで、今後の展望として、韓国で代替のない役割を担うことになる朝鮮族女性の韓国への流入と定着は更に増えはしても減ることは考えにくい。

c. 不法滞在

依然として在韓朝鮮族の不法滞在外者が多いことも看過し得ない。在韓登録外国人のうち不法滞在となっている外国人は朝鮮族が最多であり(2万2,513人)、これに更に短期滞留理由で渡韓した朝鮮族の不法滞在外者を合わると4万5,563人(05年)にのぼる⁽⁶⁶⁾。韓国政府は、05年に朝鮮族の不法滞在外者に対し

(63) 『在外同胞新聞』(ハングル) 2005年3月16日付。URL: <http://www.dongponews.net/news/articleView.html?idxno=4913> (アクセス日 07.6.13)。

(64) 労働政策研究・研修機構, 前掲書, 37頁。

(65) 労働政策研究・研修機構, 前掲書, 45頁。

(66) 韓国法務部出入国管理局『出入国管理統計年報 2005年度』407-409, 688頁。

一旦帰国すれば再度の来韓を認めるとした「同胞帰国支援プログラム」を打ち出した。在中国韓国大使館ホームページに掲載された「国内（不法）滞在在外同胞自進出国プログラム施行」公知（05.4.7作成）によると、「合法滞留者である対象者が出国した場合、出国後6か月経過時に在外公館で就業管理（F-1-4）ビザ発給が可能であり、不法滞在者である対象者が出国した場合、出国後1年経過時に在外公館で就業管理（F-1-4）ビザ発給が可能」であるとしている⁽⁶⁷⁾。05年にはこのプログラムに5万8千余名（うち不法滞在者2万6千余名）が応じ好調な滑り出しを見せたため、韓国政府は06年には密入国者、旅券偽変造者、偽装結婚者などへも対象を広げたが、今度は一転して政府の予想に反し低調であったという。問題解決と改善が滞り、また朝鮮族からは韓国政府の対朝鮮族政策はいつも付け焼き刃的で、かつ猫の目様であり信用し得ないとの不満が聞かれるなかで、韓国NGOが情報提供や各種相談窓口の役割を担っている⁽⁶⁸⁾。

d. 内部の多様化・分化

朝鮮族にとって、出国は、平凡な暮らしのありふれた一場面に過ぎなくなっている。筆者の見るところ、今日の朝鮮族の国際移動・活動の原動力は一少数民族は漢族が主導する中国の主流社会でリーダーの地位を占めることはできない、という政治的な不満を動機とする移動も個別にはあっても一、基本的には物質的な豊かさという意味での成功を求める人々の渴望である。この成功という表現は、先に見た崔紅一⁽⁶⁹⁾の作品「生活の響き」に登場する妻・貞姫のことが「必ず成功して見せるわ！」に着想を得ている。しかし誰もが成功を収めるわけではない。

今日、朝鮮族の内部の多様性が助長され、分化していつている。複数の言語

(67) 在中国大韓民国大使館ホームページ（アクセス日 07.6.13）。

(68) 一例として『中国同胞タウン新聞』（ハングル）を発行し、中国同胞センターを運営する韓国NGO「美しき社会運動本部」が挙げられる。同紙86号（2006年8月1日～15日）記事「よい政策にもかかわらず自進帰国者なぜ低調なのか？」。

(69) 崔紅一（大村益夫訳）「生活の響き」、前掲書、62頁。

に通じる朝鮮族のなかからは、移動先でエリートの地位を占める人々が輩出されるようになってきている。彼らは、移動先での生活の便宜・頻繁な国際移動の便宜から、中国国籍からの国籍変更ないし移動先での永住権取得を実現するようになってきている。その一方で、移動先で過酷な環境下で資格外の労働に従事する者がいる。少なくない中国からの就学生・留学生在がそうであるように、朝鮮族就学生・留学生の多くは、移動のための借金・移動先での生活費・学費の工面に追われている。卒業後に移動先で正規の就労者となれる者もいれば、不法就労者となってしまうものもいる。⁽⁷⁰⁾

このような問題を抱えつつ、朝鮮族のトランスナショナルな活動は増え続けている。

1.3 小 括

アジアの経済交流が量的に拡大してきたことは疑いをいれない。85-04年の間に東アジアの輸出総額は6.5倍に拡大し、輸出総額に対する域内輸出額シェアは33.6% (85年) から50.0% (04年) に上昇した。⁽⁷¹⁾ 朝鮮族のトランスナショナルな活動も、92年中韓国交正常化以降、急速な勢いで量的な増加を遂げてきている。

近年、国際関係論においても盛んに議論されている「東アジア共同体」の現在を、量的な実態把握だけでなく、「中心」と「境界」の変容に着目しながら、「ネットワーク解析」の視点から論じようとした森川の研究は、朝鮮族のトランスナショナルな活動、朝鮮族の生活圏の「境界」変化を含む生活世界の変化に注目する本稿にも多くの示唆を与えるものである。⁽⁷²⁾ 森川は、ネットワークを

(70) 権，前掲論文，255-256頁。インタビュー事例を交えて朝鮮族の「二極化」について言及している。

(71) 毛里和子・森川祐二編『東アジア共同体の構築第4巻 図説ネットワーク解析』岩波書店，2006年，32頁。輸出額の増加に比して域内輸出額シェアの伸びが33.6% (85年) から50.0% (04年) 程度であるのは，域内主要国の貿易が同時に対米貿易にも依存しているからである。

(72) 毛里和子・森川祐二編，同上書，viii頁。

「ある関係の下にある程度まで継続的に『連結』されている諸単位の統一体」と位置づけ、①関係、②時間軸（継続性）、③システムの⁽⁷³⁾3要素をネットワーク分析のための基本概念に据える。森川によると、東アジアの経済、政治、社会・文化分野における「関係」のデータ（80-04年）を収集したところ、①経済においては、東アジアの地域形成を先導してきた経済的な域内相互依存が急速な拡大を遂げながら、同時に域外依存関係を深め、域内外にまたがる双方向交流が増大している。しかし、経済構造やインフレ率に類似性がなく、域内格差も大きい。②社会・文化においては、文化コンテンツを含む情報流通、インフラ、人の移動は、90年代前半に形作られた東アジア域内の双方向交流が95-00年から浸透している。しかし、地域に閉じた交流ではなく、米国を筆頭⁽⁷⁴⁾に、グローバルに開かれた協働と交流が大きな比重を占めている。

本稿が見てきた、東北アジアのかなり広い範囲を自身の跨境生活圏としつつある朝鮮族の活動は、以上の森川の指摘と合致している。朝鮮族の場合、92年中韓国交正常化以降、中国国内の朝鮮族社会と韓国との交流が急速に拡大するなかで、朝鮮族の国際移動者のうち最も多くがことばの通じる韓国へ向かった。今日の朝鮮族の跨境生活圏において最も多くの関係性が中韓の国境を跨いでいる。韓国政府は、もはや3K業種の労働力を国内では調達し得ないという問題と、流入する朝鮮族の対応とに追われながら、在外コリアンを労働力として活用する「特例雇用許可制」—とりわけ、飲食業・家事・介護といったサービス産業で朝鮮族女性を活用するという妙案—にいきついた。国家間の経済格差を背景に、市井の人々の大量の国際活動が、新たな分野における国際的依存を作り出したといえる。しかし、働く場が韓国にあっても、韓国に暮らす朝鮮族の子弟の養育や教育の問題は韓国国内で充足されておらず、中国内に留まる年配層を活用するなど、問題の解決は各家庭に委ねられている。延吉—ソウル

(73) 「点と線の集合であるネットワークから東アジア地域の境界変動を把握するために、ネットワークとしての東アジアを、2つのサブシステム（コア）と、周辺（外部）で構成するシステムとして把握した」毛里・森川編，同上書，x頁。

(74) 毛里・森川編，同上書，278，282頁。また森川は、東アジアは政治・軍事分野においては分極と分散が混在しているという構図を確認・指摘する。

(仁川)間を2時間程度でつなぐ直行の国際線というインフラがこれを可能にしている。

朝鮮族の国際移動・活動は、その移動の原動力が豊かさへの渴望である以上、国家間の経済格差を背景に、朝鮮族はことばが通じ距離的にも近い韓国とだけしか交流しないのではなく、より豊かな暮らし・成功を求めて、どこへでも拡散していく。⁽⁷⁵⁾日本・ロシアは、朝鮮族の跨境生活圏において、韓国に次いで大きな位置を占めている。韓国は跨境生活圏において中心的位置を占めると同時に、次の移動の為のハブの役割を担いもしている。韓国に住んでいた朝鮮族の日本・アメリカへの再移動も報告されている。⁽⁷⁶⁾

朝鮮族のトランスナショナルな活動の特徴は、モノやカネのみならず、市井の人々が国境を越えて大量に移動している点であろう。「ナショナリズムと文化の関係を、移動・国際移動と関連させて考察し」た平野の論文の、ヒトの国際移動と「東アジア共同体」の関係性について言及した部分に注目してみたい。平野の意見を整理しようと試みてみると、まず「国境を移動する人々は、文化と言語を身に着けて移動する」。そして「異なる文化のなかで生きるために、自らの拠り所とする自分たちの文化の特性を強調し、その特性の周辺に寄り集まろうとする」⁽⁷⁷⁾。集団(例えば国民やエスニック・グループ)間の交流や接触は、むしろ特定の文化や特定の集団意識を強化させている。国際移動が今後、文化の共通化のみを進め、自動的に地域共同体をもたらすことはおそくない。しかし、最近の人々の旺盛な国際移動によって、東アジアでも、「それに伴う文化の移動、交流、そして限定的でありながらも、文化の共有化」や共通の意識が、文化の多様化と同時に、複数のレベルにわたる重層的な形で、ある

(75) 米国は、成功への必須科目である英語を習得でき、かつ国際政治・国際経済において世界の中心である国と考えられ、朝鮮族が居住するようになっている。2006年1月27日付『東亜日報』によるとニューヨークに居住する朝鮮族だけでも2万人超、8割が韓国人の店で働いていると推定される。

(76) 「韓国で10年間働き、3年前に米国にきた。朝鮮族が増え、延辺式の料理を求める人が増えたので、レストランを始めた」『東亜日報』2006年1月27日付。

(77) 平野健一郎「国際移動時代のナショナリズムと文化」日本国際文化学会編『インターカルチュラル』4、2006年、アカデミア出版、7、15頁。

程度存在するようになってきている。「現在、『東アジア共同体』が提唱されている地域は、そのような『一つのまとまり』として、『庶民の行動範囲』として出現しつつあるのではなかろうか⁽⁷⁸⁾」。

以上の平野の意見を朝鮮族の問題にひきつけて考えてみると、朝鮮族は活発な移動・活動のなかで、韓国人との間で深刻な軋轢を経験しながら、同時に生活様式全般において韓国化とも呼べるような変化を経験してもいる。ヒトの国際移動という研究領域において、「東アジア共同体」について、「一つのまとまり」としての「庶民の行動範囲」という視点が提出されたことは極めて興味深い。筆者は、朝鮮族の越境生活圏とは、そのサブ・システムのひとつであると考える。

(78) 平野，同上論文，17-18頁。

(79) 一例として，01年韓国のお笑い番組のコーナー「延辺チョンガ」(KBS テレビ)をめぐって，アンチサイトが登場し，韓国人と朝鮮族が書き込みで激しく衝突する事態が起こった。アンチサイトの掲示板には，民族の正統文化を継承すると自負する韓国が，そうではない延辺を「笑い」の対象としているとして，同番組の中止と謝罪が求める意見が寄せられた。感情的な書き込みの応酬がエスカレートし，サイトは閉鎖された。一連の事態を詳細に検討した玄武岩の論稿によると，朝鮮族は「中国にいるよりも韓国にいることで，むしろ『朝鮮族』であることを強く意識させられ」という『再エスニック化』の過程を経験した。玄武岩「浮遊するディアスポラ『延辺チョンガ』をめぐる中国朝鮮族のアイデンティティ・ポリティクス」『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究』2005年，96頁。